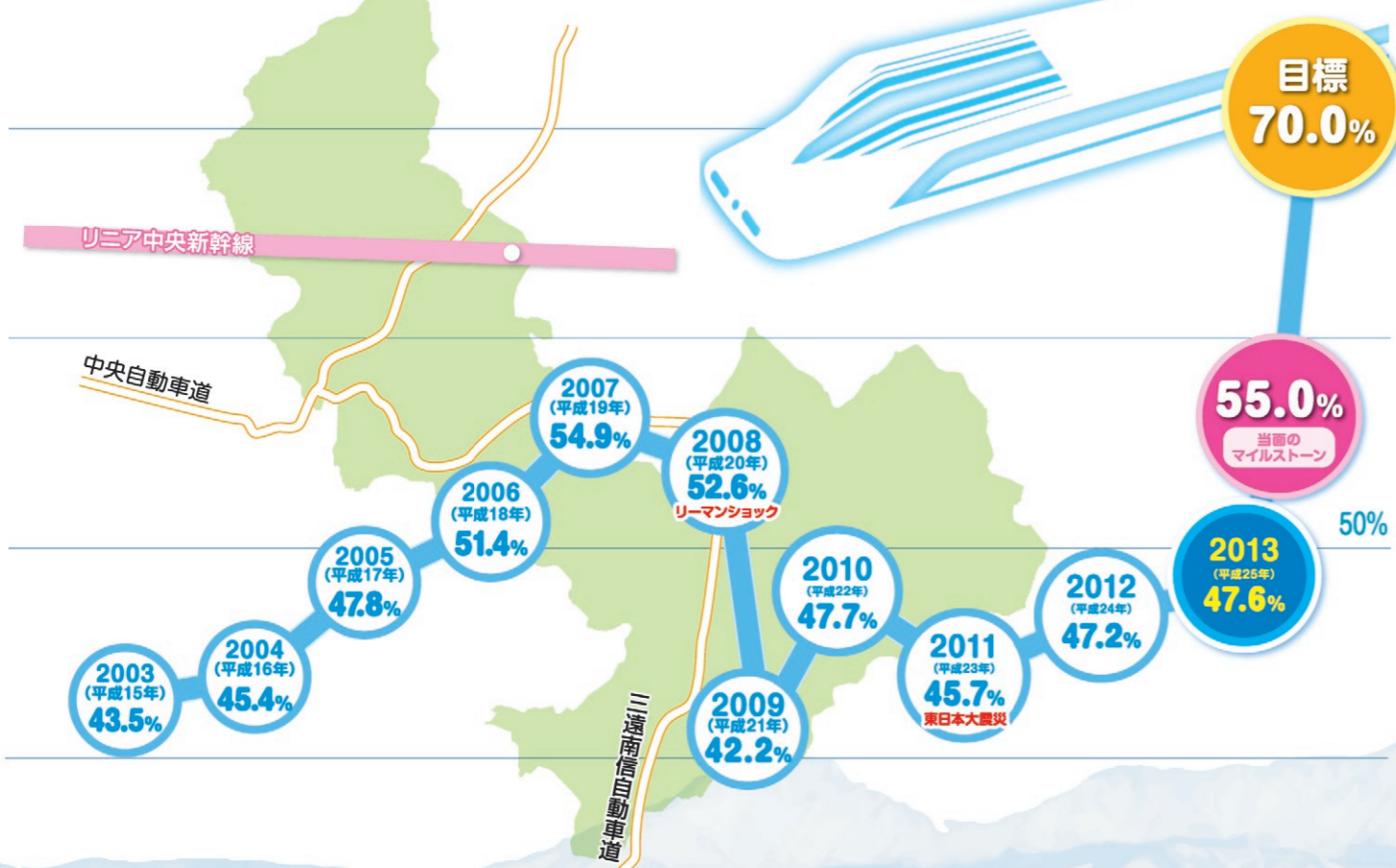


## 経済自立度の推移（地域経済波及分析）

地域経済活性化プログラムでは、「経済自立度（地域産業がもたらす波及所得額と地域が必要とする所得額を比較することにより、飯田・下伊那地域が地域産業により経済的に充足している度合いを示す指標）」を発表しています。

地域経済活性化プログラム2016では当面のマイルストーンを経済自立度55%（この数値は、リーマンショック前の経済自立度）とし、様々な事業に取り組んでいきます。



## 交流人口の拡大に向けた取組

本年は数え年で7年に1度、当地域最大規模の『飯田お練りまつり』の当たり年です。古式ゆかしい御輿渡御（みこしとぎよ）の神事に始まり、大名行列や東野大獅子他、多数の屋台獅子舞や伝統芸能の披露で中心市街地が賑わいます。これを絶好の機会と捉え、まちなか観光誘客に繋げていきます。

天龍峡では、天龍峡温泉交流館を「自然・歴史・文化に触れる癒しと交流の拠点」と位置づけ、施設整備を行ないます。また、天龍川の川下り舟会社2社が連携して、舟下りによる新たな天龍峡の魅力を創造していきます。

遠山郷では、南アルプスユネスコエコパークエリアの飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村が広域連携して魅力ある地域をつくり、エリア内にある地域の魅力に触れる新しい周遊観光に取り組めます。

リニア時代を見据えた首都圏へのプロモーションとして、日本の玄関口となる品川エリアを手始めに、各商店街での物産展やイベントの開催、メディアを活用した情報発信のほか都市住民との交流ツアーを継続実施し、首都圏での知名度向上と飯田のファンを増やし、交流人口の拡大に取り組んでいきます。



# 地域経済活性化プログラム2016

地域経済活性化プログラム2016は、飯田市版総合戦略と連携して、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道など高速交通網時代を見据えた産業づくりや、産業分野全体にわたる人材確保・人材育成の取組の強化、交流人口の拡大に向けた新たな取組などを行います。地域産業の持続的発展を図るため必要な施策を検討しながら、地域で暮らしている皆さんや事業者の皆さん、経済界や産業界の多くの皆さんとともに進めていきます。

## リニア時代を見据えた地域産業の高度化・高付加価値化を目指して

国では、平成26年11月「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、今後加速度的に進んでいく人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏に一極集中する状況を是正し、それぞれの地域が特性を発揮し住みやすい環境を確保することにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持していこうとしています。

地域自らが地域資源を活用した取組が重要となってくるなか、南信州広域連合では、リニア駅に近接する旧飯田工業高等学校を利活用し、学術研究機関、産業支援機関及び公的試験施設を集約して、産業振興と地域振興に寄与する学術研究の「知の拠点」整備に向けた具体的な検討を進めています。そのひとつに、(公財)南信州・飯田産業センターの移転と機能強化があります。

(公財)南信州・飯田産業センターは、これまで当地域産業の中核的な支援機関としての役割を担ってきました。今後リニア時代を見据え、当地域の産業がさらに発展していくためには、各産業分野の研究開発力の強化を図り、新産業の創出や地域産業の高度化・高付加価値化が重要です。そのために、(公財)南信州・飯田産業センターをはじめ、工業技術センター、飯田EMCセンターが研究開発に必要な試験・検査・評価において支援を強化し、さらに担い手となる人材を育成しながら、企業の研究、開発から事業化への一体的な支援や異業種連携による新たな産業の創出が不可欠であると考えています。

## リニア時代を見据えた地域産業の更なる発展を支える「知の拠点」づくり

